



やって見せ、言って聞かせて、させてみて、

ほめてやらねば、人は動かず

話し合い、耳を傾け、承認し、

任せてやらねば、人は育たず

やっている、姿を感謝で見守って、

信頼せねば、人は実らず

——— 山本 五十六 ———

山本 五十六（やまもと いそろく、1884年（明治17年）4月4日 - 1943年（昭和18年）4月18日）は、大日本帝国海軍の軍人。26、27代連合艦隊司令長官。位階勲等は元帥海軍大将・正三位・大勲位・功一級。

昭和14年、聯合艦隊司令長官（兼第一艦隊司令長官）に就任する。日独伊三国軍事同盟に最後まで反対する。航空機による時代の到来を予期し、大和の建造に反対し日米開戦にも反対していた。またアメリカとの国力の違いも認識しており、当時の総理大臣であった近衛文麿によると「余は日米戦争の場合、（山本）大将の見込みの如何を問ふた処、それは是非やれと言われれば初め半年や1年の間は随分暴れてご覧に入れる。然しながら、2年3年となれば全く確信は持てぬ。三国条約が出来たのは致方ないが、かくなりし上は日米戦争を回避する様極極力御努力願ひたい」（原文のまま）と発言している。

開戦決定以後は短期決着のため、特に航空機に力を入れる。その結果、真珠湾攻撃に始まる、大東亜戦争（太平洋戦争）初期は日本軍を有利に展開させ、国内では英雄として扱われる。昭和17年6月、戦略目的の不明確なミッドウェー作戦を強行し、空母4隻とその全艦載機を喪失するという大敗北を喫した。昭和18年、前線視察のため訪れていたブーゲンビル島上空で、米軍に通信文を傍受されたため乗機一式陸上攻撃機をアメリカ陸軍航空隊P-38戦闘機に撃墜され戦死した。

（フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』より抜粋引用）